

Live Performance Update for SR-112/TCG

ファームウェア 4.00 では、ライブ ショー専用設計された新しいモードが導入され、2つの主な目的が達成されました:

1. 昇順で連続したタイム コード アドレスの連続ストリームを保証します (フレームのスキップ、フレームの重複、ドロップアウトはありません)
2. ショーの先頭または新しいキューにジャンプするときに、入力タイム コードに自動的に再ジャムします。

MENUS 20: SHOW REPAIR MODE



‘Repair Mode’ メニューに‘SHOW’ というオプションが追加されました。これは次のように機能します:

1. **Input TC starts:** ジェネレーターは標準の JAM モードと同様にジャムされます。その時点からジェネレーターの出力は継続的に増加し、フレームは重複したりスキップされません (これがこのモードの鍵です)。
2. **Input TC dropout:** ジェネレーターは最後に確認されたレートで増加し続けます。無限フライホイールを備えた JAM と同等です (SHOW ではフライホイール設定が ‘Infinite’ に強制されます)。
3. **Input TC re-appears:** ジェネレーターは以前と同様に増加し続けますが、同時にシステムは出力フレーム エッジを最も近い入力 TC フレーム エッジに徐々に再調整し、それ以上のドリフトが発生しないようにします。出力タイムコードは入力番号に再ジャムしません。
ドロップアウト中にかなりのドリフトが発生した場合、出力フレーム番号が入力 TC フレーム番号と一致しない場合がありますが、フレームの重複またはスキップよりも望ましい方法です。
4. **Input TC jumps to a new cue:** 入力タイム コードがジャンプする限り、ジェネレーターは自動的に再ジャムします (手順 #1 と同じ):
- メニュー 25 で設定された方向に、そして
- メニュー 26 で設定された最小 CUE デスタンス以上の値で

そうでない場合、位相が変化していれば再調整されますが (上記のステップ3と同様)、ジェネレーターの出力数値は変化しません。(上記の手順 #3 のように)。

新しい SHOW モードをサポートするために、2つの新しいメニューが追加されました。

MENUS 25: SHOW CUE



ライブ ショー中に誤って再ジャムが発生しないように、メニュー 25 では、上記 4 で説明したジャンプの方向を制限できます。オプションは、‘Back Only’、‘Forward Only’、‘Back and Forward’です。

別のオプションは‘Off’で、自動再ジャムを完全に無効にします。

MENUS 26: SHOW CUE MINIMUM



再ジャムがゆっくりとしたドリフトではなく新しいキューでのみ発生することを保証するために、このメニューでは、上記 4 で説明したように完全な再起動を開始する前に、入力タイム コードとジェネレータータイム (分単位) の間に必要な最小距離を設定できます。

MANUAL RE-JAM & GENERATOR STOP

必要に応じて、[gen run] ボタンを 2 秒以上押し続けることで手動で再ジャムすることが可能です。入力されたタイムコードが停止しているときに、ジェネレータを停止する方法でもあります。